

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B1)

(11)特許番号
特許第7370122号
(P7370122)

(45)発行日 令和5年10月27日(2023.10.27)

(24)登録日 令和5年10月19日(2023.10.19)

(51)国際特許分類

F I

B 6 5 H 35/07 (2006.01)

B 6 5 H 35/07 E

B 6 5 H 35/07 F

請求項の数 27 (全25頁)

(21)出願番号	特願2023-524505(P2023-524505)	(73)特許権者	314000800
(86)(22)出願日	令和5年4月19日(2023.4.19)		株式会社無有
(86)国際出願番号	PCT/JP2023/015620		東京都渋谷区宇田川町2番1-524号
審査請求日	令和5年4月19日(2023.4.19)	(74)代理人	100179327
			弁理士 大坂 憲正
		(72)発明者	伊藤 博
			東京都渋谷区宇田川町2番1-524号
			株式会社無有内
		審査官	児玉 由紀

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 テープホルダー

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

巻回されたテープを回転可能に保持するテープホルダーであって、
前記テープを両側方から覆う第1及び第2の側板部を備え、
前記第1及び第2の側板部の各々は、第1及び第2の面を有し、
前記第1及び第2の側板部の前記第1の面どうしが対向した状態である第1の状態と、
前記第1及び第2の側板部の前記第2の面どうしが対向した状態である第2の状態とを切り替えられるように構成されていることを特徴とするテープホルダー。

【請求項2】

請求項1に記載のテープホルダーにおいて、
前記テープの巻回部の内側に挿通され、前記第1の側板部と前記第2の側板部とを連結する連結部を備えるテープホルダー。

【請求項3】

請求項2に記載のテープホルダーにおいて、
前記連結部は、前記第1の側板部に接続された第1の板状部と、前記第2の側板部に接続された第2の板状部とを含み、
前記連結部は、前記第1及び第2の板状部が互いに重なった状態で解除可能に固定されることにより、前記第1の側板部と前記第2の側板部とを連結するテープホルダー。

【請求項4】

請求項3に記載のテープホルダーにおいて、

前記第 1 の板状部は、爪部を有し、
前記第 2 の板状部は、前記爪部が差し込まれる切込を有し、
前記第 1 及び第 2 の板状部は、前記爪部が前記切込に差し込まれることにより、互いに固定されるテープホルダー。

【請求項 5】

請求項 1 乃至 4 の何れかに記載のテープホルダーにおいて、
前記第 1 及び第 2 の側板部は、前記テープの巻回部の全体を側方から覆っているテープホルダー。

【請求項 6】

請求項 1 乃至 4 の何れかに記載のテープホルダーにおいて、
前記第 1 及び第 2 の側板部は、前記テープの巻回部の一部のみを側方から覆っているテープホルダー。

10

【請求項 7】

請求項 1 乃至 4 の何れかに記載のテープホルダーにおいて、
前記第 1 及び第 2 の側板部の下端に接続された底板部を備えるテープホルダー。

【請求項 8】

請求項 7 に記載のテープホルダーにおいて、
前記テープの引出部を切断する切断刃を備えるテープホルダー。

【請求項 9】

請求項 8 に記載のテープホルダーにおいて、
前記切断刃は、前記底板部に取り付けられているテープホルダー。

20

【請求項 10】

請求項 9 に記載のテープホルダーにおいて、
前記切断刃の上方に設けられ、前記テープの端が前記切断刃から浮いた状態で当該テープの裏面が貼着される貼着部を備え、
前記テープは、前記裏面に粘着面が露出した粘着テープであり、
前記切断刃は、前記テープの表面側に当接した状態で前記引出部を切断するテープホルダー。

【請求項 11】

請求項 10 に記載のテープホルダーにおいて、
上下方向についての前記切断刃から前記貼着部までの距離は、前記第 1 及び第 2 の側板部間の間隔以上であるテープホルダー。

30

【請求項 12】

請求項 10 に記載のテープホルダーにおいて、
前記貼着部は、前記第 1 及び第 2 の側板部に接続されているテープホルダー。

【請求項 13】

請求項 12 に記載のテープホルダーにおいて、
前記貼着部は、前記第 1 及び第 2 の側板部の側端に接続されているテープホルダー。

【請求項 14】

請求項 10 に記載のテープホルダーにおいて、
前記貼着部の先端部の幅は、前記テープの幅よりも小さいテープホルダー。

40

【請求項 15】

請求項 14 に記載のテープホルダーにおいて、
前記貼着部の幅は、前記先端部に近づくにつれて単調に小さくなるテープホルダー。

【請求項 16】

請求項 10 に記載のテープホルダーにおいて、
前記第 1 及び第 2 の側板部の側端どうしは、前記貼着部のみによって連結されているテープホルダー。

【請求項 17】

請求項 10 に記載のテープホルダーにおいて、

50

前記第 1 及び第 2 の側板部の上端どうしは、連結されていないテープホルダー。

【請求項 18】

請求項 10 に記載のテープホルダーにおいて、

前記貼着部は、前記第 1 及び第 2 の側板部に対して着脱自在であるテープホルダー。

【請求項 19】

請求項 8 に記載のテープホルダーにおいて、

前記第 1 及び第 2 の側板部の側端間の所定の範囲内に前記テープの引出部を案内する案内部を備え、

前記テープは、粘着テープであり、

前記案内部は、

前記底板部から離間しており、前記引出部が通過する開口と、

前記開口に連設され、前記引出部が貼着される貼着部と、

前記開口を通過した前記引出部を切断する前記切断刃と、を有するテープホルダー。

【請求項 20】

請求項 19 に記載のテープホルダーにおいて、

前記貼着部は、前記開口から前記第 1 及び第 2 の側板部の外側に向かって張り出しているテープホルダー。

【請求項 21】

請求項 19 に記載のテープホルダーにおいて、

前記切断刃の先端は、前記貼着部から離間しているテープホルダー。

【請求項 22】

請求項 19 に記載のテープホルダーにおいて、

前記貼着部の幅は、前記テープの幅よりも小さいテープホルダー。

【請求項 23】

請求項 19 に記載のテープホルダーにおいて、

前記開口は、側面視で、前記第 1 及び第 2 の側板部の前記側端に重なるテープホルダー。

【請求項 24】

請求項 19 に記載のテープホルダーにおいて、

前記案内部は、前記第 1 及び第 2 の側板部に接続されているテープホルダー。

【請求項 25】

請求項 24 に記載のテープホルダーにおいて、

前記案内部は、前記第 1 及び第 2 の側板部の前記側端に接続されているテープホルダー。

【請求項 26】

請求項 19 に記載のテープホルダーにおいて、

前記第 1 及び第 2 の側板部の前記側端どうしは、前記案内部のみによって連結されているテープホルダー。

【請求項 27】

請求項 19 に記載のテープホルダーにおいて、

前記案内部は、前記第 1 及び第 2 の側板部に対して着脱自在であるテープホルダー。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、巻回されたテープ用のテープホルダーに関する。

【背景技術】

【0002】

従来のテープホルダーとしては、例えば特許文献 1 に記載されたものがある。同文献に記載されたテープホルダーは、巻回されたテープを回転可能に保持するテープホルダーであって、一対の側板部（面板）を備えている。一対の側板部は、テープを両側方から覆っている。このテープホルダーにおいてテープは、一対の側板部間の隙間から繰り出される。

【先行技術文献】

10

20

30

40

50

【特許文献】

【0003】

【文献】特開平9-48553号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、側板部の外面には、何らかのデザインが施されているのが通常である。ユーザは、テープホルダーを購入する際、好みのデザインが施された商品を選択することができる。しかしながら、デザインの好みは、ユーザのその時の気分にも左右されるため、一定とは限らない。この点、従来のテープホルダーは、当然ながら、側板部の外面に施されたデザインを変更することができなかった。

10

【0005】

本発明は、上記課題に鑑みてなされたものであり、側板部の外面のデザインを変更することが可能なテープホルダーを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明によるテープホルダーは、巻回されたテープを回転可能に保持するテープホルダーであって、上記テープを両側方から覆う第1及び第2の側板部を備え、上記第1及び第2の側板部の各々は、第1及び第2の面を有し、上記第1及び第2の側板部の上記第1の面どうしが対向した状態である第1の状態と、上記第1及び第2の側板部の上記第2の面どうしが対向した状態である第2の状態とを切り替えられるように構成されていることを特徴とする。

20

【0007】

このテープホルダーは、第1及び第2の側板部の第1の面どうしが対向した状態（第1の状態）と、第1及び第2の側板部の第2の面どうしが対向した状態（第2の状態）とを切り替えられるように構成されている。第1の状態では第2の面が各側板部の外面を構成する一方、第2の状態では第1の面が各側板部の外面を構成することになる。このため、第1及び第2の面に相異なるデザインを施しておけば、第1及び第2の状態の切替えにより、各側板部の外面のデザインを変更することができる。

【発明の効果】

30

【0008】

本発明によれば、側板部の外面のデザインを変更することが可能なテープホルダーが実現される。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】本発明によるテープホルダーの第1実施形態を示す斜視図である。

【図2】図1のテープホルダーを示す側面図である。

【図3】図1のテープホルダーを示す側面図である。

【図4】図1のテープホルダーを示す正面図である。

【図5】図1のテープホルダーを示す端面図である。

40

【図6】貼着部50を示す斜視図である。

【図7】図1のテープホルダーの製造方法の一例を説明するための図である。

【図8】図1のテープホルダーの製造方法の一例を説明するための図である。

【図9】図1のテープホルダーの製造方法の一例を説明するための図である。

【図10】図1のテープホルダーの使用方法の一例を説明するための側面図である。

【図11】図1のテープホルダーの使用方法の一例を説明するための側面図である。

【図12】図1のテープホルダーの使用方法の一例を説明するための側面図である。

【図13】図1のテープホルダーの使用方法の一例を説明するための斜視図である。

【図14】本発明によるテープホルダーの第2実施形態を示す斜視図である。

【図15】図14のテープホルダーを示す側面図である。

50

【図 16】図 14 のテープホルダーを示す側面図である。
【図 17】図 14 のテープホルダーを示す正面図である。
【図 18】図 14 のテープホルダーを示す平面図である。
【図 19】図 14 のテープホルダーを示す端面図である。
【図 20】案内部 70 を示す斜視図である。
【図 21】図 14 のテープホルダーの製造方法の一例を説明するための図である。
【図 22】図 14 のテープホルダーの製造方法の一例を説明するための図である。
【図 23】図 14 のテープホルダーの製造方法の一例を説明するための図である。
【図 24】図 14 のテープホルダーの製造方法の一例を説明するための図である。
【図 25】図 14 のテープホルダーの使用方法の一例を説明するための端面図である。
【図 26】図 14 のテープホルダーの使用方法の一例を説明するための端面図である。
【図 27】図 14 のテープホルダーの使用方法の一例を説明するための斜視図である。
【図 28】一変形例に係る案内部 70 を示す斜視図である。
【図 29】他の変形例に係る案内部 70 を示す斜視図である。
【発明を実施するための形態】

【0010】

以下、図面を参照しつつ、本発明の実施形態について詳細に説明する。なお、図面の説明においては、同一要素には同一符号を付し、重複する説明を省略する。

（第 1 実施形態）

【0011】

図 1 は、本発明によるテープホルダーの第 1 実施形態を示す斜視図である。図 2 及び図 3 は、図 1 のテープホルダーを示す側面図である。図 4 は、図 1 のテープホルダーを示す正面図である。図 4 は、図 1 のテープホルダーを右側から見た図に相当する。また、図 5 は、図 1 のテープホルダーを示す端面図である。

【0012】

テープホルダー 1 は、巻回されたテープ 90 を回転可能に保持するテープホルダーである。テープ 90 は、円環状の芯に巻回されている。テープ 90 は、裏面に粘着面が露出した粘着テープである。テープ 90 は、裏面にのみ粘着面が設けられていてもよいし、両面（表面及び裏面）に粘着面が設けられていてもよい。前者の例としては、例えば、セロハンテープ、医療用テープ、及びマスキングテープが挙げられる。後者の例としては、例えば両面テープが挙げられる。両面テープは、裏面にのみ粘着面が露出しているとしてもよいし、両面に粘着面が露出しているとしてもよい。前者の両面テープにおいては、表面に剥離紙が貼着されている。なお、図 1 乃至図 4 においては、テープ 90 の図示を省略している。

【0013】

テープ 90 は、巻回部 92、及び引出部 94 からなる（図 5 参照）。巻回部 92 は、テープ 90 における芯に巻回された部分であり、全体として円環状をしている。巻回部 92 の各部分の裏面は、巻回部 92 の他の部分の表面、又は芯に貼着されている。引出部 94 は、テープ 90 における巻回部 92 から引き出された部分である。それゆえ、引出部 94 の裏面は、巻回部 92 の表面にも芯にも貼着されていない。

【0014】

テープホルダー 1 は、側板部 12（第 1 の側板部）、及び側板部 14（第 2 の側板部）を備えている。側板部 12 及び側板部 14 は、テープ 90 を挟むように設けられており、テープ 90 を両側方から覆っている。図 2 及び図 3 は、それぞれ、側板部 12 及び側板部 14 側からテープホルダー 1 を見た図に相当する。また、図 5 は、各側板部 12、14 に平行で、かつ側板部 12 と側板部 14 との中間に位置する端面を示している。側板部 12 と側板部 14 とは、互いに合同な形状をしており、側面視で完全に重なり合っている。

【0015】

各側板部 12、14 の下部（側面視で、後述する連結部 20 を含む直線より下の部分）は、矩形をしている。一方、各側板部 12、14 の上部（側面視で、上記直線より上の部分）は、半円状をしている。本実施形態において側板部 12 及び側板部 14 は、テープ 9

10

20

30

40

50

0の巻回部92の全体を側方から覆っている。すなわち、側板部12及び側板部14は、側面視で、巻回部92の全体に重なっている。各側板部12, 14は、板状をしており、面S1(第1の面)及び面S2(第2の面)を有している。各側板部12, 14において面S2は、面S1と反対側の面である。図示は省略されているが、面S1及び面S2には、相異なるデザインが施されている。例えば、面S1を黄色、桃色、青色に着色する一方、面S2を緑色、赤色、橙色に着色してもよい。また、面S1に白雪姫のキャラクターを描く一方、面S2にミニオンのキャラクターを描いてもよい。さらに、面S1にスペインの旅行写真を印刷する一方、面S2にフランスの旅行写真を印刷してもよい。

【0016】

各側板部12, 14は、半円状の開口部16を有している。開口部16は、各側板部12, 14の上部に形成されている。開口部16は、指を挿入することが可能な大きさをしている。それゆえ、テープホルダー1は、開口部16に指を入れた状態で、手に持って使用することができる。また、各側板部12, 14には、後述する爪部54の差込口となる切込18が形成されている。

【0017】

テープホルダー1は、側板部12及び側板部14の面S1どうしが対向した状態(第1の状態)と、側板部12及び側板部14の面S2どうしが対向した状態(第2の状態)とを切り替えられるように構成されている。図1は、第1の状態を示している。テープホルダー1においては、テープホルダー1を損傷することなく、第1の状態と第2の状態との切替えを繰り返し行うことができる。これにより、テープホルダー1は、第1の状態及び第2の状態の何れでも使用することができるリバーシブル構造を有している。側板部12, 14の材料としては、例えば、紙類、プラスチック、金属、又は木材を用いることができる。紙類には、加工紙、及びセルロースナノファイバー(CNF)も含まれる。プラスチックは、生分解性プラスチックであってもよい。

【0018】

さらに、テープホルダー1は、連結部20、底板部30、切断刃40、及び貼着部50を備えている。連結部20は、側板部12と側板部14とを連結している。連結部20は、巻回部92の内側に挿通されている。連結部20は、板状をしている。連結部20の厚み方向は、各側板部12, 14の厚み方向に垂直である。連結部20は、板状部22(第1の板状部)、及び板状部24(第2の板状部)を含んでいる。板状部22及び板状部24は、それぞれ、側板部12及び側板部14に接続されている。詳細には、板状部22及び板状部24は、開口部16の下端に接続されている。

【0019】

連結部20は、板状部22及び板状部24が互いに重なった状態で解除可能に固定されることにより、側板部12と側板部14とを連結している。ここで、「解除可能」とは、テープホルダー1を損傷することなく、板状部22及び板状部24が互いに固定された状態を解除できるということである。連結部20は、側板部12, 14と一体に形成されることが好ましい。連結部20の材料は、側板部12, 14の材料と同一であってもよいし、異なってもよい。

【0020】

底板部30は、側板部12の下端12a及び側板部14の下端14aに接続されている。これにより、側板部12の下端12aと側板部14の下端14aとは、底板部30によって連結されている。底板部30は、各下端12a, 14aの全体に接続されていてもよいし、一部にのみ接続されていてもよい。底板部30は、板状をしている。底板部30の厚み方向は、各側板部12, 14の厚み方向に垂直であり、連結部20の厚み方向に等しい。底板部30は、側板部12, 14と一体に形成されることが好ましい。底板部30の材料は、側板部12, 14の材料と同一であってもよいし、異なってもよい。

【0021】

切断刃40は、テープ90の引出部94を切断する。詳細には、切断刃40は、テープ90の表面側に当接した状態で引出部94を切断する。切断刃40は、底板部30に取り

10

20

30

40

50

付けられている。具体的には、切断刃 40 は、底板部 30 の端部に取り付けられている。切断刃 40 の先端は、底板部 30 から食み出している。切断刃 40 の先端は、巻回部 92 から離間している。これにより、切断刃 40 は、一定の長さの引出部 94 を残して、テープ 90 を切断する。切断刃 40 の材料は、側板部 12, 14 の材料と同一であってもよいし、異なってもよい。切断刃 40 は、底板部 30 と一体に形成されてもよい。

【0022】

貼着部 50 は、切断刃 40 の上方に設けられている。図 5 に示すように、貼着部 50 には、テープ 90 の端 90a が切断刃 40 から浮いた状態で、テープ 90 の裏面が貼着される。具体的には、貼着部 50 の先端部 52 に、テープ 90 の裏面が貼着される。先端部 52 は、貼着部 50 の下端に等しい。先端部 52 (テープ 90 の裏面が接触する部分) は、平坦であってもよいし、凹凸が形成されていてもよい。貼着部 50 の幅は、先端部 52 に近づくにつれて単調に小さくなっている。先端部 52 の幅 w_1 (図 4 参照) は、テープ 90 の幅よりも小さい。すなわち、幅 w_1 は、テープホルダー 1 において使用することが想定されるテープ 90 の幅よりも小さく設計されている。幅 w_1 は、テープ 90 の幅の 50 % 以下であることが好ましく、20 % 以下であることがより好ましい。

【0023】

貼着部 50 は、側板部 12 及び側板部 14 に接続されている。具体的には、貼着部 50 は、側板部 12 の側端 12b 及び側板部 14 の側端 14b に接続されている。側端 12b は、側板部 12 の下端 12a 以外の周縁のうち、下部に位置する部分である。同様に、側端 14b は、側板部 14 の下端 14a 以外の周縁のうち、下部に位置する部分である。側端 12b, 14b は、直線状をしている。これにより、側板部 12 の側端 12b と側板部 14 の側端 14b とは、貼着部 50 によって連結されている。側端 12b と側端 14b とは、貼着部 50 のみによって連結されている。それゆえ、側端 12b と側端 14b とは、貼着部 50 の反対側においては連結されていない。また、側板部 12 の上端 12c と側板部 14 の上端 14c とは、連結されていない。上端 12c は、側板部 12 の下端 12a 以外の周縁のうち、上部に位置する部分である。同様に、上端 14c は、側板部 14 の下端 14a 以外の周縁のうち、上部に位置する部分である。上端 12c, 14c は、曲線状をしている。

【0024】

上下方向についての切断刃 40 から貼着部 50 (先端部 52) までの距離 d_1 (図 4 参照) は、側板部 12 及び側板部 14 間の間隔 d_2 以上であることが好ましい。上下方向は、底板部 30 の厚み方向 (図 1 乃至図 4 の上下方向) に等しい。距離 d_1 は、10 mm 以上であることが好ましく、15 mm 以上であることがより好ましい。

【0025】

図 6 は、貼着部 50 を示す斜視図である。貼着部 50 には、爪部 54 が接続されている。爪部 54 は、貼着部 50 を側板部 12, 14 に取り付けるための部分である。爪部 54 は、貼着部 50 の両側端の各々から側板部 12, 14 の内側に向かって延在している。爪部 54 を各側板部 12, 14 の切込 18 に差し込むことにより、側板部 12, 14 に貼着部 50 を取り付けることができる。本実施形態において爪部 54 は、各側板部 12, 14 の外面から内面に向かって差し込まれている。爪部 54 を切込 18 から引き抜くことにより、側板部 12, 14 から貼着部 50 を取り外すことができる。このように、貼着部 50 は、側板部 12 及び側板部 14 に対して着脱自在である。ここで、着脱自在とは、テープホルダー 1 を損傷することなく、側板部 12, 14 に対する貼着部 50 の取付け及び取外しを繰り返し行えるということである。

【0026】

側面視で、先端部 52 は、側端 12b, 14b 上に位置している。平面視で、先端部 52 は、切断刃 40 の先端に重なってもよいし、重ならなくてもよい。すなわち、先端部 52 は、切断刃 40 の先端の真上に位置してもよいし、斜め上に位置してもよい。後者の場合、平面視で切断刃 40 の先端から先端部 52 までの距離 (水平方向の距離) は、距離 d_1 よりも小さいことが好ましい。貼着部 50 は、板状をしている。貼着部 50 の厚み方向

は、各側板部 1 2 , 1 4 の厚み方向にも底板部 3 0 の厚み方向にも垂直である。貼着部 5 0 の材料は、側板部 1 2 , 1 4 の材料と同一であってもよいし、異なってもよい。

【 0 0 2 7 】

図 7 乃至図 9 を参照しつつ、テープホルダー 1 の製造方法の一例を説明する。まず、充分な大きさのシートを切断し、図 7 に示す形のシート 6 2、及び図 8 に示す形のシート 6 4 を準備する。本例において各シート 6 2, 6 4 は、紙類（厚紙）からなる。シート 6 2 は、側板部 1 2 となる部分 1 2 p、側板部 1 4 となる部分 1 4 p、板状部 2 2 となる部分 2 2 p、板状部 2 4 となる部分 2 4 p、及び底板部 3 0 となる部分 3 0 p からなる。各部分 1 2 p, 1 4 p には、開口部 1 6 となる部分 1 6 p、及び切込 1 8 が形成されている。部分 2 2 p は、爪部 2 3 を有している。部分 2 4 p には、爪部 2 3 の差込口となる切込 2 5 が形成されている。部分 3 0 p には、切断刃 4 0 が取り付けられている。シート 6 4 は、貼着部 5 0 となる部分 5 0 p、及び爪部 5 4 となる部分 5 4 p からなる。

【 0 0 2 8 】

次に、図 9 に示すように、折目 L 1、折目 L 2、折目 L 3、折目 L 4 及び折目 L 5 に沿ってシート 6 2 を直角に谷折りにする。折目 L 1 は、部分 1 2 p と部分 2 2 p との境界に位置する。折目 L 2 は、部分 1 4 p と部分 2 4 p との境界に位置する。折目 L 3 は、部分 1 2 p と部分 3 0 p との境界に位置する。折目 L 4 は、部分 1 4 p と部分 3 0 p との境界に位置する。折目 L 5 は、爪部 2 3 の根元に位置する。このとき、部分 2 2 p, 2 4 p が巻回部 9 2 の内側に挿通されるように、部分 1 2 p と部分 1 4 p との間にテープ 9 0 を配置する。その後、部分 2 4 p の上に部分 2 2 p が重なるようにして、部分 2 2 p と部分 2 4 p とを固定する。この固定は、爪部 2 3 を切込 2 5 に差し込むことにより行われる。これにより、側板部 1 2、側板部 1 4、連結部 2 0、及び底板部 3 0 が形成される。側板部 1 2 及び側板部 1 4 は、面 S 1 どちらが対向した状態（第 1 の状態）にある。連結部 2 0 は、爪部 2 3 を有する板状部 2 2、及び切込 2 5 を有する板状部 2 4 からなっている。このように、本例において側板部 1 2、側板部 1 4、連結部 2 0、及び底板部 3 0 は、1 枚のシートから形成されている。

【 0 0 2 9 】

また、折目 L 6 に沿ってシート 6 4 を直角に谷折りする。折目 L 6 は、部分 5 0 p と部分 5 4 p との境界に位置する。これにより、図 6 に示した貼着部 5 0 が形成される。その後、爪部 5 4 を切込 1 8 に差し込むことにより、貼着部 5 0 が側板部 1 2, 1 4 に取り付けられる。以上により、図 1 乃至図 5 に示したテープホルダー 1 が得られる。

【 0 0 3 0 】

図 1 0 乃至図 1 3 を参照しつつ、テープホルダー 1 の使用方法の一例を説明する。まず、図 1 0 に示すように、テープ 9 0（引出部 9 4）を指で摘んで、テープ 9 0 を貼着部 5 0 から剥がした後、底板部 3 0 に沿って引っ張る。これにより、底板部 3 0 と貼着部 5 0 との間からテープ 9 0 が繰り出される。次に、図 1 1 に示すように、テープ 9 0 の表面を切断刃 4 0 の先端に押し当てるようにしてテープ 9 0 を切断する。その後、図 1 2 に示すように、テープ 9 0 の裏面を貼着部 5 0 に再び貼着する。このとき、テープ 9 0 の端 9 0 a が先端部 5 2 から食み出すようにすることが好ましい。引出部 9 4 は、貼着部 5 0 へのみ貼着される。すなわち、テープホルダー 1 は、テープホルダー 1 における貼着部 5 0 以外の部分に引出部 9 4 が貼着されないように構成されている。このようにして、テープホルダー 1 からテープ 9 0 を繰り出して、所望の長さの切断片を得ることができる。

【 0 0 3 1 】

第 1 の状態から第 2 の状態に切り替えるときは、側板部 1 2, 1 4 から貼着部 5 0 を取り外した後、爪部 2 3 を切込 2 5 から引き抜くことにより、板状部 2 2 及び板状部 2 4 が互いに固定された状態を解除する。次に、折目 L 1 ~ L 5 に沿ってシート 6 2 を反対側に折る。具体的には、シート 6 2 を図 7 の状態に戻した後、図 1 3 に示すように、折目 L 1 ~ L 5 に沿ってシート 6 2 を山折りにする。このとき、部分 1 2 p と部分 1 4 p との間にテープ 9 0 を配置する。その後、爪部 2 3 を切込 2 5 に差し込むことにより、部分 2 2 p と部分 2 4 p とを再び固定する。これにより、側板部 1 2 及び側板部 1 4 は、面 S 2 どちら

しが対向した状態（第２の状態）になる。

【００３２】

テープホルダー１の効果を説明する。テープホルダー１は、側板部１２，１４の面Ｓ１どうしが対向した状態（第１の状態）と、側板部１２，１４の面Ｓ２どうしが対向した状態（第２の状態）とを切り替えられるように構成されている。第１の状態では面Ｓ２が各側板部１２，１４の外面を構成する一方、第２の状態では面Ｓ１が各側板部１２，１４の外面を構成することになる。このため、面Ｓ１及び面Ｓ２に相異なるデザインを施しておけば、第１及び第２の状態の切替えにより、各側板部１２，１４の外面のデザインを変更することができる。したがって、側板部１２，１４の外面のデザインを変更することが可能なテープホルダー１が実現されている。

10

【００３３】

このようにテープホルダー１をリバーシブルにすることにより、ユーザが組み立て遊びを楽しむこともできる。すなわち、第１及び第２の状態の切替えを遊びとして楽しむことができる。このため、テープホルダー１は、販促品として活用するのにも適している。また、色彩心理学等の知見を用いれば、第１又は第２の状態の何れを選択するかによって、ユーザの心理状態を推知することもできる。このことは、例えば、大人が、子供や自分自身の心理状態（精神状態）を把握するのに役立つ。

【００３４】

テープホルダー１には、テープ９０の巻回部９２の内側に挿通され、側板部１２と側板部１４とを連結する連結部２０が設けられている。これにより、テープ９０がテープホルダー１から脱落するのを防ぐことができる。

20

【００３５】

連結部２０は、板状部２２及び板状部２４が互いに重なった状態で解除可能に固定されることにより、側板部１２と側板部１４とを連結している。これにより、第１及び第２の状態の切替えを可能にしつつ、各状態（第１又は第２の状態）を維持することができる。

【００３６】

板状部２２及び板状部２４は、爪部２３が切込２５に差し込まれることにより、互いに固定されている。これにより、接着剤や粘着テープ等を用いることなく、板状部２２と板状部２４とを安定的に固定することができる。

【００３７】

側板部１２及び側板部１４は、テープ９０の巻回部９２の全体を側方から覆っている。これにより、巻回部９２に塵埃が付着するのを抑制することができる。ただし、本実施形態において側板部１２及び側板部１４は、巻回部９２の一部のみを側方から覆ってもよい。

30

【００３８】

テープホルダー１には、側板部１２，１４の下端１２ａ，１４ａに接続された底板部３０が設けられている。これにより、テープホルダー１の形状（側板部１２と側板部１４とが一定の間隔で対向した形状）を安定的に維持することができる。

【００３９】

テープホルダー１には、テープ９０の引出部９４を切断する切断刃４０が設けられている。これにより、テープホルダー１を用いて、テープ９０の繰出しだけでなく切断まで行うことができる。すなわち、テープホルダー１は、テープカッターとしての機能も具備している。

40

【００４０】

切断刃４０は、底板部３０に取り付けられている。これにより、切断刃４０を安定的に固定しやすくなる。

【００４１】

切断刃４０の上方に貼着部５０が設けられている。貼着部５０には、テープ９０の端９０ａが切断刃４０から浮いた状態で、テープ９０の裏面が貼着される。これにより、テープ９０の端９０ａと切断刃４０との間に隙間が確保されるため、テープ９０を指で摘みやすくなる。

50

【0042】

このようにテープ90を貼着部50に貼着しておくことにより、テープ90の巻戻り（引出部94が巻回部92に戻る）を起こりにくくすることができる。また、切断刃40から離れた位置でテープ90を摘めるため、テープ90を繰り出す際に指が切断刃40に触れにくくなる。このため、テープホルダー1の安全性を高めることができる。

【0043】

上下方向についての切断刃40から貼着部50までの距離d1が大きい方が、テープ90の端90aと切断刃40との隙間が広くなるため、テープ90を摘みやすくするのに有利である。かかる観点から、距離d1は、側板部12, 14間の間隔d2以上であることが好ましい。同様の観点から、距離d1は、10mm以上であることが好ましく、15mm以上であることがより好ましい。他方、距離d1が大きすぎると、貼着部50を配置する場所をテープホルダー1に確保しにくくなりかねない。かかる観点から、距離d1は、50mm以下であることが好ましい。

10

【0044】

貼着部50は、側板部12及び側板部14に接続されている。この場合、貼着部50は、テープホルダー1の形状を安定的に維持するのにも役立つ。

【0045】

貼着部50は、側板部12, 14の側端12b, 14bに接続されている。これにより、貼着部50の先端部52を側端12b, 14bに揃えやすくなる。実際、テープホルダー1においては、側面視で、先端部52が側端12b, 14b上に位置している。この場合、側板部12及び側板部14で挟まれた空間の奥に先端部52が入り込まないため、貼着部50に貼着されたテープ90を指で摘みやすくするのに有利である。

20

【0046】

先端部52の幅w1は、テープ90の幅よりも小さい。この場合、幅w1を変えることにより、先端部52とテープ90との接触面積、ひいては貼着部50とテープ90との間の粘着力を調整することができる。これにより、貼着部50の材料の選択肢を増やすことができる。

【0047】

テープ90における貼着部50に貼着されていた部分は、貼着部50から剥がした後に粘着力が低下しやすい。それゆえ、幅w1を小さくした方が、テープ90の粘着力を維持するのに有利である。かかる観点から、幅w1は、テープ90の幅の50%以下であることが好ましく、20%以下であることがより好ましい。他方、幅w1が小さすぎると、貼着部50とテープ90との間の粘着力が不十分になりかねない。かかる観点から、幅w1は、テープ90の幅の5%以上であることが好ましい。

30

【0048】

貼着部50の幅は、先端部52に近づくにつれて単調に小さくなっている。これにより、各側板部12, 14に接続されつつ、先端部52の幅w1がテープ90の幅よりも小さい貼着部50を容易に実現することができる。

【0049】

貼着部50は、側板部12及び側板部14に対して着脱自在である。この場合、貼着部50を側板部12及び側板部14から取り外した状態で、第1及び第2の状態の切替えを行うことが可能となる。これにより、第1及び第2の状態の切替えを円滑に行うことができる。

40

【0050】

貼着部50が紙類からなる場合、貼着部50ひいてはテープホルダー1の軽量化を図ることができる。テープホルダー1がCNFを材料として含有する場合、テープホルダー1の軽量化及び高強度化を図るのに有利となる。また、CNFを用いることは、環境負荷の低減にも資する。

【0051】

側板部12, 14の側端12b, 14bどうしは、貼着部50のみによって連結されて

50

いる。この場合、貼着部 50 の他には、側端 12b, 14b どうしを連結する部材が不要である。これにより、テープホルダー 1 の材料を節約することができる。このことは、テープホルダー 1 の製造コストの削減に資する。

【0052】

側板部 12, 14 の上端 12c, 14c どうしは、連結されていない。この場合、上端 12c, 14c どうしを連結する部材が不要である。これにより、テープホルダー 1 の材料を一層節約することができる。

(第 2 実施形態)

【0053】

図 14 は、本発明によるテープホルダーの第 2 実施形態を示す斜視図である。図 15 及び図 16 は、図 14 のテープホルダーを示す側面図である。図 17 及び図 18 は、それぞれ、図 14 のテープホルダーを示す正面図及び平面図である。図 17 は、図 14 のテープホルダーを右側から見た図に相当する。また、図 19 は、図 14 のテープホルダーを示す端面図である。テープホルダー 2 は、テープ 90 を回転可能に保持するテープホルダーである。なお、図 14 乃至図 18 においては、テープ 90 の図示を省略している。

【0054】

テープホルダー 2 は、側板部 12、及び側板部 14 を備えている。側板部 12 及び側板部 14 は、テープ 90 を挟むように設けられており、テープ 90 を両側方から覆っている。図 15 及び図 16 は、それぞれ、側板部 12 及び側板部 14 側からテープホルダー 2 を見た図に相当する。また、図 19 は、各側板部 12, 14 に平行で、かつ側板部 12 と側板部 14 との中間に位置する端面を示している。本実施形態において側板部 12 及び側板部 14 は、テープ 90 の巻回部 92 の一部のみを側方から覆っている。すなわち、側板部 12 及び側板部 14 は、側面視で、巻回部 92 の一部にのみ重なっている。各側板部 12, 14 は、矩形の板状をしている。各側板部 12, 14 には、後述する爪部 78 の差込口となる切込 18 が形成されている。

【0055】

テープホルダー 2 は、側板部 12 及び側板部 14 の面 S1 どうしが対向した状態（第 1 の状態）と、側板部 12 及び側板部 14 の面 S2 どうしが対向した状態（第 2 の状態）とを切り替えられるように構成されている。図 14 は、第 1 の状態を示している。テープホルダー 2 においては、テープホルダー 2 を損傷することなく、第 1 の状態と第 2 の状態との切替えを繰り返し行うことができる。これにより、テープホルダー 2 は、第 1 の状態及び第 2 の状態の何れでも使用することができるリバーシブル構造を有している。

【0056】

さらに、テープホルダー 2 は、連結部 20、底板部 30、及び案内部 70 を備えている。連結部 20 は、板状部 22、及び板状部 24 を含んでいる。本実施形態において板状部 22 及び板状部 24 は、それぞれ、側板部 12 の上端 12c 及び側板部 14 の上端 14c に接続されている。これにより、側板部 12 の上端 12c と側板部 14 の上端 14c とは、連結部 20 によって連結されている。連結部 20 のその他の構成、及び底板部 30 の構成は、第 1 実施形態で説明したとおりである。

【0057】

案内部 70 は、側板部 12 の側端 12b と側板部 14 の側端 14b との間の所定の範囲内にテープ 90 の引出部 94 を案内する。すなわち、案内部 70 は、側面視で引出部 94 が側端 12b, 14b と所定の範囲内で交わるように、引出部 94 を案内する。案内部 70 は、底板部 30 から離間している。案内部 70 は、側板部 12 及び側板部 14 に接続されている。具体的には、案内部 70 は、側板部 12 の側端 12b 及び側板部 14 の側端 14b に接続されている。これにより、側板部 12 の側端 12b と側板部 14 の側端 14b とは、案内部 70 によって連結されている。側端 12b と側端 14b とは、案内部 70 のみによって連結されている。それゆえ、側端 12b と側端 14b とは、案内部 70 の反対側においては連結されていない。案内部 70 の材料は、側板部 12, 14 の材料と同一であってもよいし、異なってもよい。

【0058】

図20は、案内部70を示す斜視図である。案内部70は、開口72、貼着部74、切断刃76、及び爪部78を有している。開口72は、テープ90の引出部94が通過する部分である。開口72は、底板部30から離間している。開口72は、側面視で、側板部12、14の側端12b、14bに重なっている。開口72の全体を含む平面の垂線は、各側板部12、14の厚み方向にも底板部30の厚み方向にも垂直である。上述の「所定の範囲」は、開口72の範囲に等しい。開口72は、正面視で、横長の矩形をしている。開口72の左右方向（各側板部12、14の厚み方向に等しい）の長さd3（図17参照）は、側板部12及び側板部14間の間隔d2よりも小さい。長さd3は、テープ90の幅よりも大きい。

10

【0059】

貼着部74は、開口72に連設されている。具体的には、貼着部74は、開口72の下端に連設されている。貼着部74は、開口72から側板部12、14の外側に向かって張り出している。貼着部74には、図19に示すように、テープ90の引出部94が貼着される。具体的には、貼着部74の貼着面74aに、引出部94の裏面が貼着される。貼着面74aは、貼着部74の上面に等しい。貼着面74aは、平面状をしている。貼着面74aは、底板部30と平行である。貼着部74の幅w2（図18参照）は、テープ90の幅よりも小さい。幅w2は、貼着面74aの左右方向の寸法として定義される。幅w2は、テープ90の幅の50%以下であることが好ましく、20%以下であることがより好ましい。

20

【0060】

切断刃76は、開口72を通過した引出部94を切断する。上述の開口72及び貼着部74は、引出部94に沿って、巻回部92と切断刃76との間に設けられている。切断刃76の先端は、引出部94を切断しやすいように、外向き（側端12b、14bから遠ざかる向き）になっている。切断刃76の先端は、側面視で、側板部12、14の側端12b、14bから食み出している。また、切断刃76の先端は、側面視で、貼着部74よりも内側に位置している。すなわち、切断刃76の先端から側端12b、14bまでの距離d4（図15参照）は、貼着部74の先端から側端12b、14bまでの距離d5よりも小さい。切断刃76の先端は、貼着部74から離間している。切断刃76の先端は、底板部30からも離間している。すなわち、各側板部12、14の上下方向について、切断刃76の先端は、貼着部74と底板部30との間に位置している。切断刃76は、案内部70の下端に設けられている。切断刃76の幅は、テープ90の幅以上である。

30

【0061】

切断刃76の材料は、案内部70の他の部分の材料と同一であってもよいし、異なってもよい。後者の場合、例えば、切断刃76の材料として金属を用いるとともに、他の部分の材料として紙類を用いることが考えられる。また、切断刃76は、案内部70の他の部分と一体に形成されてもよいし、他の部分と別々に形成された後に当該部分に取り付けられてもよい。

【0062】

爪部78は、案内部70を側板部12、14に取り付けるための部分である。爪部78は、案内部70の両側端の各々から側板部12、14の内側に向かって延在している。ただし、図20においては、2つの爪部78のうち片方の爪部78の図示を省略している。爪部78を各側板部12、14の切込18に差し込むことにより、側板部12、14に案内部70を取り付けることができる。本実施形態において爪部78は、各側板部12、14の外面から内面に向かって差し込まれている。爪部78を切込18から引き抜くことにより、側板部12、14から案内部70を取り外すことができる。このように、案内部70は、側板部12及び側板部14に対して着脱自在である。ここで、着脱自在とは、テープホルダー2を損傷することなく、側板部12、14に対する案内部70の取付け及び取外しを繰り返し行えるということである。

40

【0063】

50

図 2 1 乃至図 2 4 を参照しつつ、テープホルダー 2 の製造方法の一例を説明する。まず、十分な大きさのシートを切断し、図 2 1 に示す形のシート 6 6、及び図 2 2 に示す形のシート 6 8 を準備する。本例において各シート 6 6、6 8 は、紙類（厚紙）からなる。シート 6 6 は、側板部 1 2 となる部分 1 2 p、側板部 1 4 となる部分 1 4 p、板状部 2 2 となる部分 2 2 p、板状部 2 4 となる部分 2 4 p、及び底板部 3 0 となる部分 3 0 p からなる。各部分 1 2 p、1 4 p には、切込 1 8 が形成されている。部分 2 2 p は、爪部 2 3 を有している。部分 2 4 p には、爪部 2 3 の差込口となる切込 2 5 が形成されている。シート 6 8 は、開口 7 2 となる部分 7 2 p、貼着部 7 4 となる部分 7 4 p、及び爪部 7 8 となる部分 7 8 p からなる。

【0064】

次に、図 2 3 に示すように、折目 L 7、折目 L 8、折目 L 9、折目 L 1 0 及び折目 L 1 1 に沿ってシート 6 6 を直角に谷折りにする。折目 L 7 は、部分 1 2 p と部分 2 2 p との境界に位置する。折目 L 8 は、部分 1 4 p と部分 2 4 p との境界に位置する。折目 L 9 は、部分 1 2 p と部分 3 0 p との境界に位置する。折目 L 1 0 は、部分 1 4 p と部分 3 0 p との境界に位置する。折目 L 1 1 は、爪部 2 3 の根元に位置する。このとき、部分 2 2 p、2 4 p が巻回部 9 2 の内側に挿通されるように、部分 1 2 p と部分 1 4 p との間にテープ 9 0 を配置する。その後、部分 2 4 p の上に部分 2 2 p が重なるようにして、部分 2 2 p と部分 2 4 p とを固定する。この固定は、爪部 2 3 を切込 2 5 に差し込むことにより行われる。これにより、側板部 1 2、側板部 1 4、連結部 2 0、及び底板部 3 0 が形成される。側板部 1 2 及び側板部 1 4 は、面 S 1 どちらが対向した状態（第 1 の状態）にある。連結部 2 0 は、爪部 2 3 を有する板状部 2 2、及び切込 2 5 を有する板状部 2 4 からなっている。このように、本例において側板部 1 2、側板部 1 4、連結部 2 0、及び底板部 3 0 は、1 枚のシートから形成されている。

【0065】

また、図 2 4 に示すように、折目 L 1 2 に沿ってシート 6 8 を直角に谷折りするとともに、折目 L 1 3 に沿ってシート 6 8 を直角に山折りする。折目 L 1 2 は、部分 7 4 p の下端に位置する。折目 L 1 3 は、部分 7 8 p の根元に位置する。これにより、部分 7 4 p が抜けた部分が、部分 7 2 p と共に開口 7 2 となる。さらに、開口 7 2 の下方に切断刃 7 6 を取り付けることにより、案内部 7 0 が形成される。その後、爪部 7 8 を切込 1 8 に差し込むことにより、案内部 7 0 が側板部 1 2、1 4 に取り付けられる。以上により、図 1 4 乃至図 1 9 に示したテープホルダー 2 が得られる。

【0066】

図 2 5 乃至図 2 7 を参照しつつ、テープホルダー 2 の使用方法の一例を説明する。まず、図 2 5 に示すように、テープ 9 0 の引出部 9 4 を指で摘んで、引出部 9 4 を貼着部 7 4 から剥がした後、引出部 9 4 を側板部 1 2、1 4 の外側に引っ張る。これにより、開口 7 2 を通して、側板部 1 2、1 4 の側端 1 2 b、1 4 b 間の隙間からテープ 9 0 が繰り出される。次に、図 2 6 に示すように、引出部 9 4 の裏面を切断刃 7 6 の先端に押し当てて引出部 9 4 を切断する。切断後、引出部 9 4 は、再び、貼着部 7 4 に貼着された状態となる（図 1 9 参照）。このとき、テープ 9 0 の端 9 0 a は、切断刃 7 6 の先端上に残ってもよいし、切断刃 7 6 の先端から離れてもよい。このようにして、テープホルダー 2 からテープ 9 0 を繰り出して、所望の長さの切断片を得ることができる。

【0067】

第 1 の状態から第 2 の状態に切り替えるときは、側板部 1 2、1 4 から案内部 7 0 を取り外した後、爪部 2 3 を切込 2 5 から引き抜くことにより、板状部 2 2 及び板状部 2 4 が互いに固定された状態を解除する。次に、折目 L 7 ～ L 1 1 に沿ってシート 6 6 を反対側に折る。具体的には、シート 6 6 を図 2 1 の状態に戻した後、図 2 7 に示すように、折目 L 7 ～ L 1 1 に沿ってシート 6 6 を山折りにする。このとき、部分 1 2 p と部分 1 4 p との間にテープ 9 0 を配置する。その後、爪部 2 3 を切込 2 5 に差し込むことにより、部分 2 2 p と部分 2 4 p とを再び固定する。これにより、側板部 1 2 及び側板部 1 4 は、面 S 2 どちらが対向した状態（第 2 の状態）になる。

【0068】

テープホルダー２の効果の説明する。テープホルダー２は、側板部１２，１４の面Ｓ１どうしが対向した状態（第１の状態）と、側板部１２，１４の面Ｓ２どうしが対向した状態（第２の状態）とを切り替えられるように構成されている。第１の状態では面Ｓ２が各側板部１２，１４の外面を構成する一方、第２の状態では面Ｓ１が各側板部１２，１４の外面を構成することになる。このため、面Ｓ１及び面Ｓ２に相異なるデザインを施しておけば、第１及び第２の状態の切替えにより、各側板部１２，１４の外面のデザインを変更することができる。したがって、側板部１２，１４の外面のデザインを変更することが可能なテープホルダー２が実現されている。

【0069】

側板部１２及び側板部１４は、テープ９０の巻回部９２の一部のみを側方から覆っている。これにより、側板部１２，１４の材料を節約することができる。このことは、テープホルダー２の製造コストの削減に資する。ただし、本実施形態において側板部１２及び側板部１４は、巻回部９２の全体を側方から覆ってもよい。

【0070】

テープホルダー２には、側板部１２，１４の側端１２ｂ，１４ｂ間の所定の範囲内にテープ９０の引出部９４を案内する案内部７０が設けられている。案内部７０は、底板部３０から離間した開口７２を有している。開口７２を通過した引出部９４は、切断刃７６で切断される。切断後の引出部９４は、開口７２に連設された貼着部７４に貼着される。これにより、引出部９４が開口７２を通過した状態が維持されるため、底板部３０から離間した位置で引出部９４を摘むことが可能となる。このため、繰り出す際にテープ９０の引出部９４を摘みやすくなる。また、このようにテープ９０を貼着部７４に貼着しておくことにより、テープ９０の巻戻りを起こりにくくすることができる。

【0071】

貼着部７４は、開口７２から側板部１２，１４の外側に向かって張り出している。これにより、貼着部７４が側板部１２，１４の内側に向かって張り出している場合に比して、貼着部７４に貼着された引出部９４を摘みやすくなる。ただし、貼着部７４は、開口７２から側板部１２，１４の内側に向かって張り出していてもよい。その場合、貼着部７４は、側板部１２と側板部１４との間に挟まれた状態となる。

【0072】

切断刃７６の先端は、側面視で、貼着部７４よりも内側に位置している。この場合、貼着部７４に対して切断刃７６が引っ込んだ状態となるため、テープホルダー２の安全性を高めることができる。ただし、切断刃７６の先端は、側面視で、貼着部７４よりも外側に位置していてもよい。

【0073】

切断刃７６の先端は、貼着部７４から離間している。この場合、貼着部７４に貼着された引出部９４を切断刃７６から離れた位置で摘めるため、テープ９０を繰り出す際に指が切断刃７６に触れにくくなる。このため、テープホルダー２の安全性を高めることができる。

【0074】

貼着部７４の幅ｗ２は、テープ９０の幅よりも小さい。この場合、幅ｗ２を変えることにより、貼着部７４とテープ９０との接触面積、ひいては貼着部７４とテープ９０との間の粘着力を調整することができる。これにより、貼着部７４の材料の選択肢を増やすことができる。ただし、幅ｗ２は、テープ９０の幅に等しくてもよいし、テープ９０の幅より大きくてもよい。例えば、幅ｗ２は、開口７２の左右方向の長さｄ３に等しくてもよい。

【0075】

開口７２は、側面視で、側板部１２，１４の側端１２ｂ，１４ｂに重なっている。このように開口７２の位置を側端１２ｂ，１４ｂに揃えることにより、側板部１２，１４の側端１２ｂ，１４ｂ間の所定の範囲内にテープ９０の引出部９４を確実に案内することができる。

10

20

30

40

50

【0076】

案内部70は、側板部12及び14に接続されている。この場合、案内部70は、テープホルダー2の形状を安定的に維持するのに役立つ。しかも、案内部70は、側板部12、14の側端12b、14bに接続されている。これにより、開口72の位置を側端12b、14bに揃えやすくなる。

【0077】

案内部70は、側板部12及び側板部14に対して着脱自在である。この場合、案内部70を側板部12及び側板部14から取り外した状態で、第1及び第2の状態の切替えを行うことが可能となる。これにより、第1及び第2の状態の切替えを円滑に行うことができる。テープホルダー2のその他の効果は、テープホルダー1と同様である。

10

【0078】

本発明は、上記実施形態に限定されるものではなく、様々な変形が可能である。上記実施形態においては、爪部23が切込25に差し込まれることにより板状部22と板状部24とが互いに固定される場合を例示した。しかし、板状部22と板状部24との固定は、解除可能である限り、他の手段により行われてもよい。他の手段としては、例えば、被着体に跡を残さずに剥がすことのできる両面テープを用いることが考えられる。両面テープを用いる場合、粘着面が露出する部分は、剥離紙で覆っておくことが好ましい。かかる剥離紙にデザインが施されていてもよい。同様に、側板部12、14に対する貼着部50又は案内部70の固定も、両面テープを用いて行われてもよい。

【0079】

20

上記実施形態において案内部70は、図28又は図29に示す構造をしていてもよい。図28において案内部70は、開口72、貼着部74、切断刃76、及び糊代部79を有している。開口72及び貼着部74は、互いに合同な台形状をしている。貼着部74は、開口72の下端の全体に連設されている。貼着面74aの左右方向の寸法は、貼着部74の先端に近づくにつれて次第に小さくなっている。これにより、貼着部74に貼着された引出部94を一層摘みやすくなる。このように貼着面74aの左右方向の寸法が一定でない場合、貼着部74の幅w2は、当該寸法の最大値として定義される。糊代部79は、案内部70を側板部12、14に取り付けるための部分である。糊代部79は、案内部70の両側端の各々から側板部12、14の内側に向かって延在している。また、糊代部79は、案内部70の両側端の全体に設けられている。例えば上述の両面テープを介して糊代部79の外面を各側板部12、14の内面に貼り合わせることで、側板部12、14に案内部70を取り付けることができる。

30

【0080】

図29において案内部70は、開口72、貼着部74、張出部75、切断刃76、及び糊代部79を有している。貼着部74は、三角形形状をしている。貼着部74は、開口72の下端の一部にのみ連設されている。貼着面74aの左右方向の寸法は、貼着部74の先端に近づくにつれて次第に小さくなっている。張出部75は、開口72の上端の全体に連設されている。張出部75は、開口72から側板部12、14の外側に向かって張り出している。このように張出部75を設けることにより、テープ90を縫れにくくすることができる。さらに、裏面（粘着面）が張出部75側を向くようにテープ90を配置した場合、張出部75は、引出部94が貼着される貼着部としても機能する。両面に粘着面が露出した両面テープをテープ90として用いた場合も、同様である。

40

【0081】

上記実施形態においては、テープ90が粘着テープである場合を例示した。しかし、テープ90は、粘着面を有しない非粘着テープであってもよい。非粘着テープとしては、例えば紙テープが挙げられる。

【符号の説明】

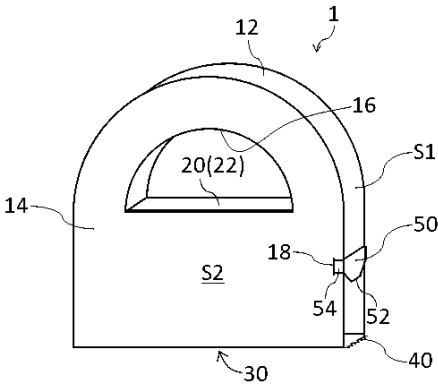
【0082】

- 1 テープホルダー
- 2 テープホルダー

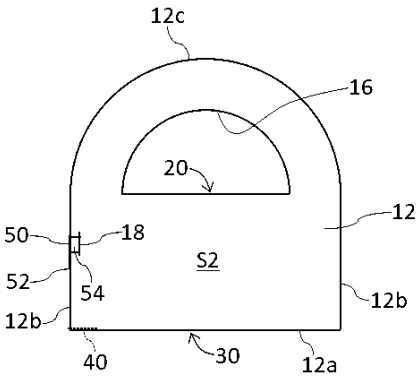
50

1 2	側板部（第 1 の側板部）	
1 2 a	下端	
1 2 b	側端	
1 2 c	上端	
1 4	側板部（第 2 の側板部）	
1 4 a	下端	
1 4 b	側端	
1 4 c	上端	
1 6	開口部	
1 8	切込	10
2 0	連結部	
2 2	板状部（第 1 の板状部）	
2 3	爪部	
2 4	板状部（第 2 の板状部）	
2 5	切込	
3 0	底板部	
4 0	切断刃	
5 0	貼着部	
5 2	先端部	
5 4	爪部	20
6 2	シート	
6 4	シート	
6 6	シート	
6 8	シート	
7 0	案内部	
7 2	開口	
7 4	貼着部	
7 4 a	貼着面	
7 5	張出部	
7 6	切断刃	30
7 8	爪部	
7 9	糊代部	
9 0	テープ	
9 0 a	端	
9 2	巻回部	
9 4	引出部	
S 1	面（第 1 の面）	
S 2	面（第 2 の面）	
【要約】		
側板部の外面のデザインを変更することが可能なテープホルダーを提供する。テープホルダー 1 は、巻回されたテープを回転可能に保持するテープホルダーであって、側板部 1 2、及び側板部 1 4 を備えている。側板部 1 2 及び側板部 1 4 は、テープを両側方から覆っている。各側板部 1 2、1 4 は、面 S 1 及び面 S 2 を有している。テープホルダー 1 は、側板部 1 2 及び側板部 1 4 の面 S 1 どうしが対向した状態である第 1 の状態と、側板部 1 2 及び側板部 1 4 の面 S 2 どうしが対向した状態である第 2 の状態とを切り替えられるように構成されている。		40

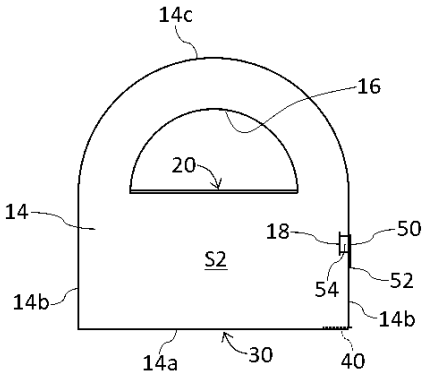
【図面】
【図 1】



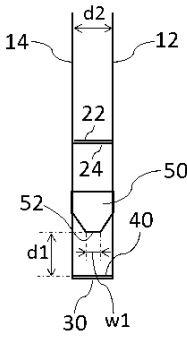
【図 2】



【図 3】



【図 4】



10

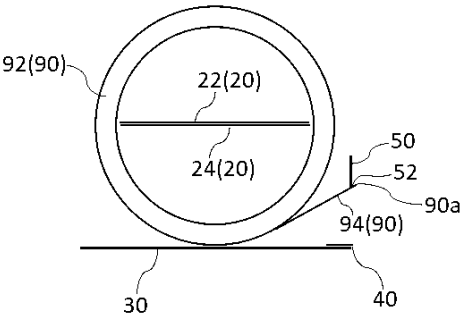
20

30

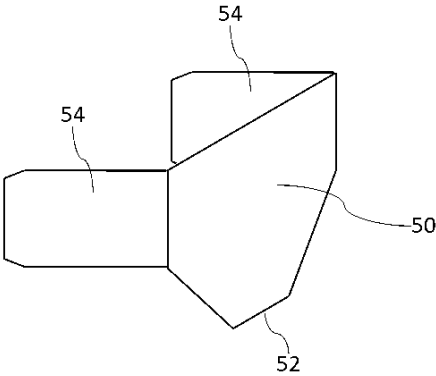
40

50

【図 5】

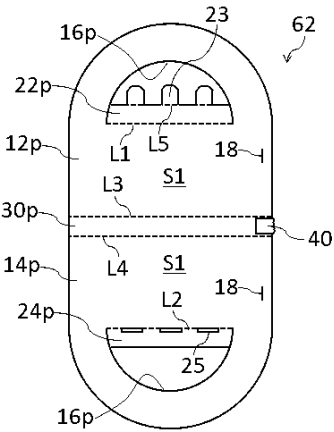


【図 6】

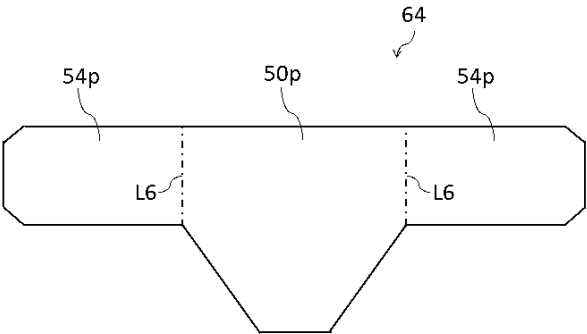


10

【図 7】



【図 8】



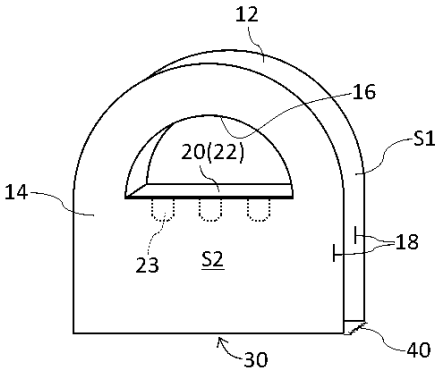
20

30

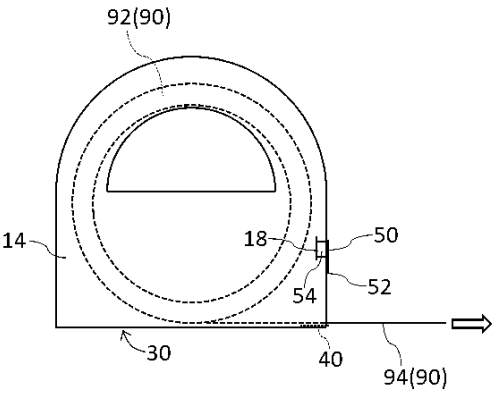
40

50

【図 9】

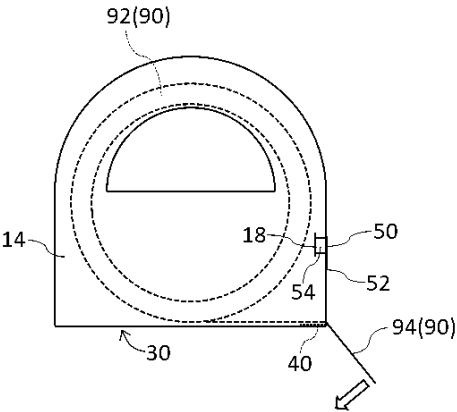


【図 10】

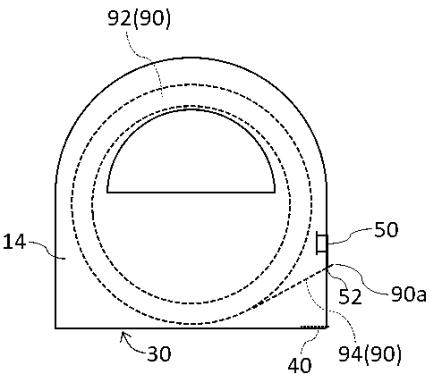


10

【図 11】



【図 12】



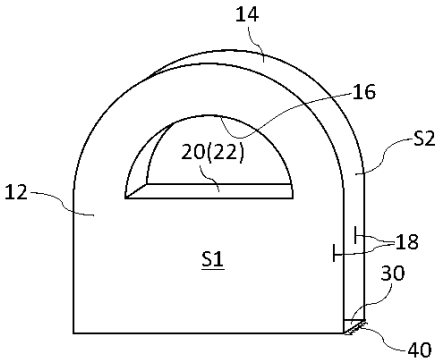
20

30

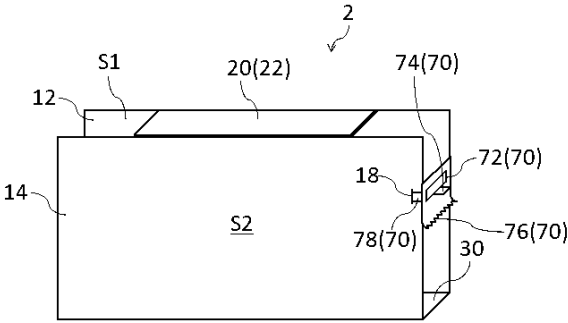
40

50

【図 1 3】

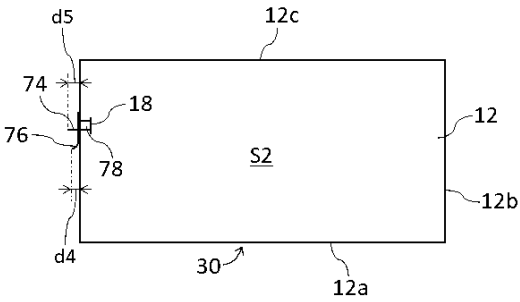


【図 1 4】

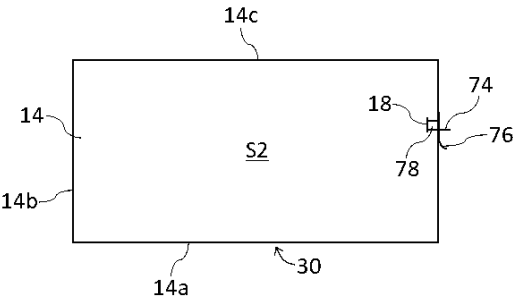


10

【図 1 5】



【図 1 6】



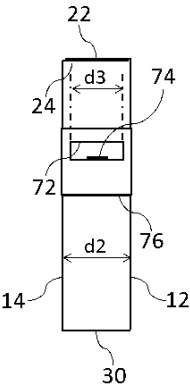
20

30

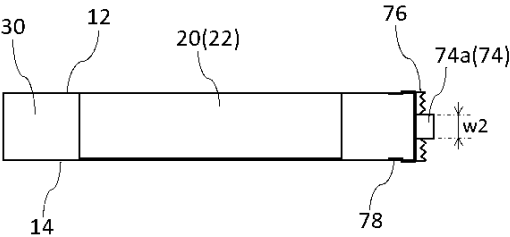
40

50

【図 1 7】

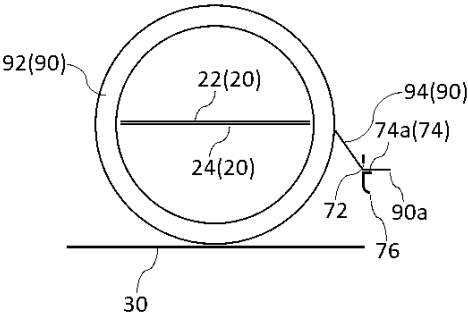


【図 1 8】

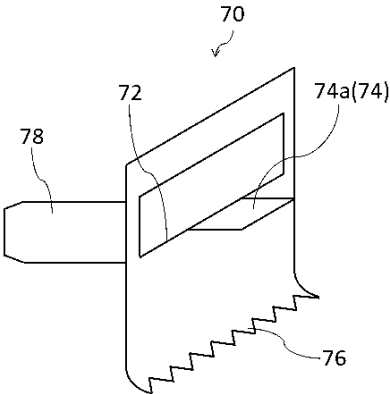


10

【図 1 9】



【図 2 0】



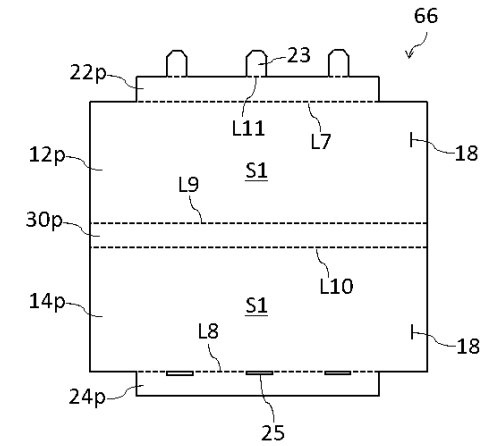
20

30

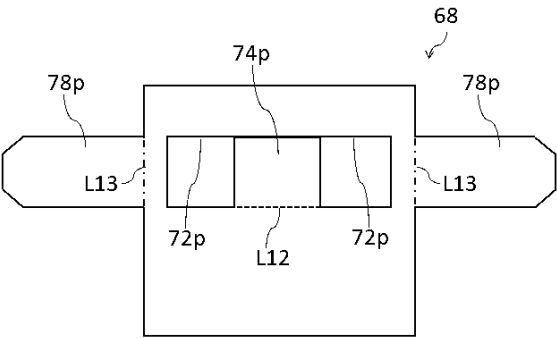
40

50

【図 2 1】

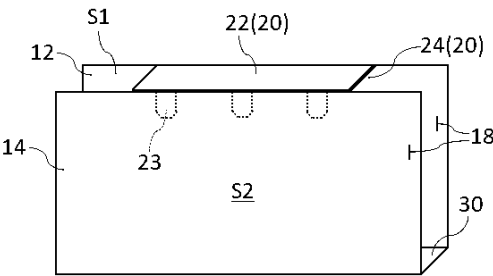


【図 2 2】

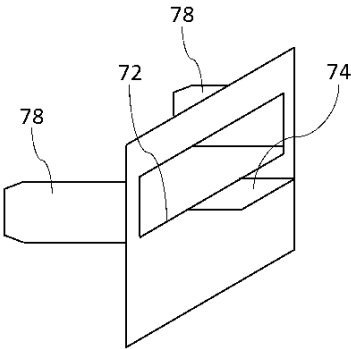


10

【図 2 3】



【図 2 4】



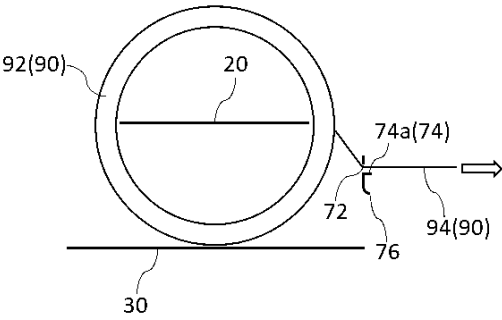
20

30

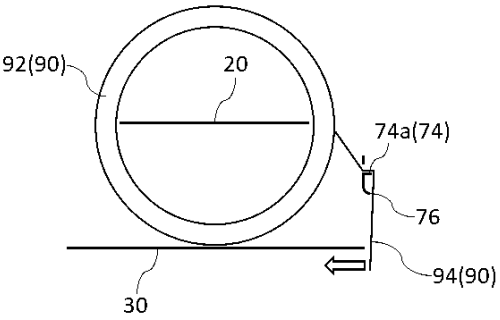
40

50

【図 2 5】

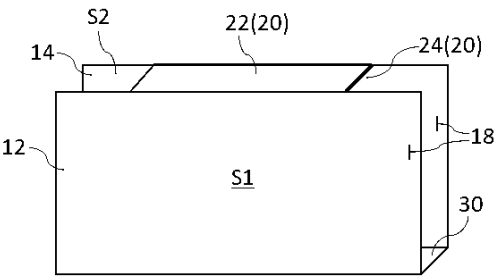


【図 2 6】

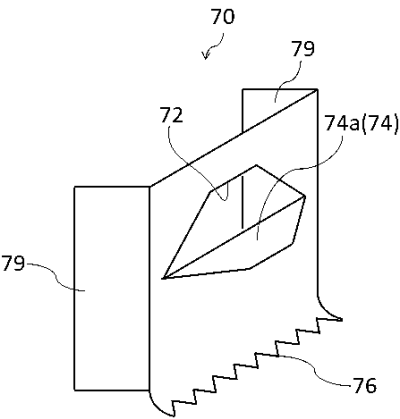


10

【図 2 7】



【図 2 8】



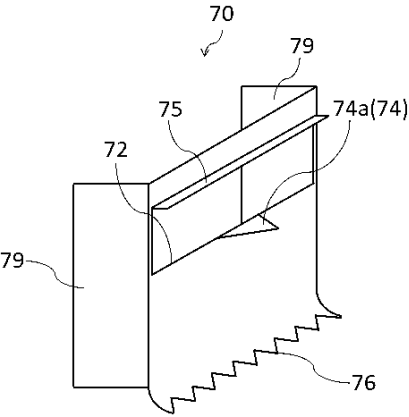
20

30

40

50

【図 29】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開 2 0 0 6 - 1 5 1 5 4 4 (J P , A)
米国特許第 4 9 7 8 3 3 0 (U S , A)
実開昭 5 6 - 6 8 5 3 (J P , U)
実開昭 4 9 - 1 2 1 9 8 9 (J P , U)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., D B 名)
B 6 5 H 3 5 / 0 0 - 3 5 / 1 0